

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-301923

(43)Date of publication of application : 13.11.1998

(51)Int.Cl. G06F 17/21
G06F 12/00
G06F 17/30

(21)Application number : 09-109447 (71)Applicant : CASIO COMPUT CO LTD

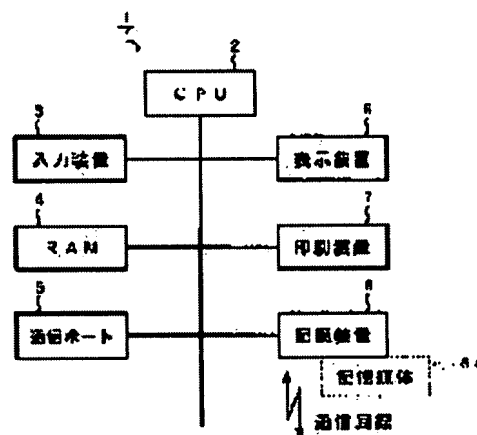
(22)Date of filing : 25.04.1997 (72)Inventor : SANHONGI MASAO

(54) DATA PROCESSOR AND RECORDING MEDIUM

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To prepare a hyper text markup language(HTML) file by a simple method and a low cost device.

SOLUTION: A CPU 2 displays an input item included in a specified HTML file preparing template on a display device 6 as an input picture. When data corresponding to the displayed input item are inputted, the inputted data are stored in a corresponding position of the template and an HTML file is prepared based on the template storing the data and stored in an HTML file memory 4E included in a RAM 4.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 28.09.1999

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 24.12.2003

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

- [Date of final disposal for application]
- [Patent number]
- [Date of registration]
- [Number of appeal against examiner's decision of rejection]
- [Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]
- [Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-301923

(43) 公開日 平成10年(1998)11月13日

(51) Int.Cl.⁸

G 0 6 F 17/21
12/00
17/30

識別記号

5 1 1

F I

C 0 6 F 15/20
12/00
15/401

5 3 8 M
5 1 1
3 1 0 A

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号

特願平9-109447

(22) 出願日

平成9年(1997)4月25日

(71) 出願人 000001443

カシオ計算機株式会社

東京都渋谷区本町1丁目6番2号

(72) 発明者 三本木 正雄

東京都羽村市栄町3丁目2番1号 カシオ
計算機株式会社羽村技術センター内

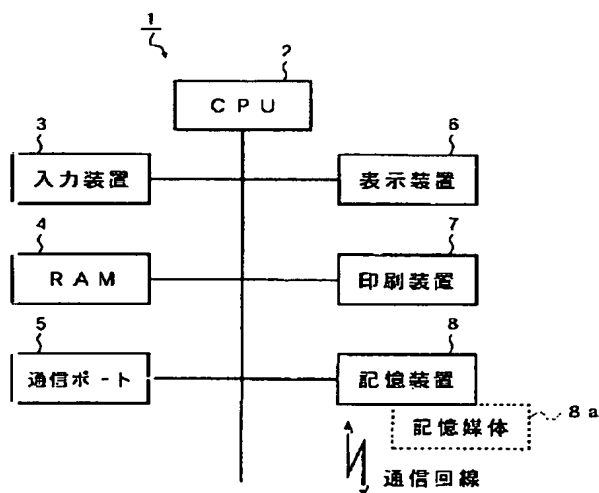
(74) 代理人 弁理士 荒船 博司 (外1名)

(54) 【発明の名称】 データ処理装置及び記憶媒体

(57) 【要約】

【課題】 簡単な方法で、且つ低コストの装置でHTMLファイルを作成可能なデータ処理装置及び記憶媒体を提供することにある。

【解決手段】 CPU 2は、指定されたHTMLファイル作成用テンプレートに含まれる入力項目を入力画面として表示装置 6に表示し、表示された入力項目に対応するデータが入力されると、入力されたデータを指定されたHTMLファイル作成用テンプレートの対応する場所に格納し、データが格納されたHTMLファイル作成用テンプレートに基づいてHTMLファイルを作成し、RAM 4内のHTMLファイルメモリ 4Eに格納する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】HTMLファイルを作成するための入力項目を備えた複数種類のHTMLファイル作成用テンプレートを記憶した記憶手段と、

前記複数種類のHTMLファイル作成用テンプレートから1のHTMLファイル作成用テンプレートを指定する指定手段と、

指定されたHTMLファイル作成用テンプレートに含まれる入力項目を入力画面として表示手段に表示させる第1表示制御手段と、

表示された入力項目に対応するデータを入力するデータ入力手段と、

前記入力されたデータを前記指定されたHTMLファイル作成用テンプレートの対応する場所に格納し、データが格納されたHTMLファイル作成用テンプレートに基づいてHTMLファイルを作成するHTMLファイル作成手段と、

を備えたことを特徴とするデータ処理装置。

【請求項2】前記HTMLファイルを解析して、前記表示手段に表示させる第2表示制御手段を備えたことを特徴とする請求項1記載のデータ処理装置。

【請求項3】前記データ入力手段により、前記入力項目に入力されたデータのうち、特定の入力項目のデータを抽出してインデックスを作成するインデックス作成手段を備え、

前記インデックスと、前記HTMLファイルはリンクされていることを特徴とする請求項1又は2記載のデータ処理装置。

【請求項4】前記入力画面は複数あり、それぞれのインデックスがあることを特徴とする請求項1～3のいずれか1つの記載のデータ処理装置。

【請求項5】前記第2表示制御手段により、前記HTMLファイルを解析して前記表示手段に表示されている状態から前記入力画面に戻して編集を可能とする編集手段を備えたことを特徴とする請求項1～4のいずれか1つに記載のデータ処理装置。

【請求項6】コンピュータが実行可能なプログラムを格納した記憶媒体であって、

記憶手段に記憶された、HTMLファイルを作成するための入力項目を備えた複数種類のHTMLファイル作成用テンプレートの中から、1のHTMLファイル作成用テンプレートを指定するためのコンピュータが読取可能なプログラムコードと、

指定されたHTMLファイル作成用テンプレートに含まれる入力項目を入力画面として表示手段に表示させるためのコンピュータが読取可能なプログラムコードと、

表示された入力項目に対応するデータを入力するためのコンピュータが読取可能なプログラムコードと、

前記入力されたデータを前記指定されたHTMLファイル作成用テンプレートの対応する場所に格納し、データ

が格納されたHTMLファイル作成用テンプレートに基づいてHTMLファイルを作成するためのコンピュータが読取可能なプログラムコードと、

を含むプログラムを備えたことを特徴とする記憶媒体。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】本発明は、データ処理装置及び記憶媒体に係り、詳細には、HTMLファイルを作成するデータ処理装置及び記憶媒体に関する。

【0002】

【従来の技術】近時、TCP/IPプロトコルを用いて行われるインターネット等の通信ネットワークが普及している。このインターネットのホームページ等を作成するためにHTML(Hyper Text Markup Language)が使用されている。

【0003】従来、HTMLファイルを作成する方法としては、例えば、以下に示す3つの方法が知られている。

【0004】第1の方法は、テキスト入力用のエディタにHTML用のタグ入力ボタンやメニューを追加したものを利用する方法であり、使用者は入力したテキストデータに自分でタグを入力してHTMLファイルを作成する。

【0005】第2の方法は、入力したいテキストや画像などを専用のソフトウェア上にドラッグ&ドロップして位置決めを行い、それをHTMLファイルに置き換える方法である。

【0006】第3の方法は、ワープロソフトなどで入力された表示状態を、そのままHTMLファイルに変換する方法である。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、従来のHTMLファイルの作成方法では、以下に示す問題がある。まず、上記第1の方法では、使用者がHTMLのタグを理解できなければHTMLファイルを作成することができないという問題がある。上記第2の方法では、HTMLのタグを理解する必要はないが、全て、ソフトウェアで処理を行うため、ソフトウェアが膨大な容量となり、かつ、CPUなどのハードウェアに高いパフォーマンスが要求されるという問題がある。そして、上記第3の方法では、ワープロで作成するためワープロの制限の中でHTMLファイルに変換することになるため、上記第2の方法と同様に、ソフトウェアが膨大な容量となり、かつ、CPUなどのハードウェアに高いパフォーマンスが要求されるという問題がある。

【0008】本発明の課題は、簡単な方法で、且つ低コストの装置でHTMLファイルを作成可能なデータ処理装置及び記憶媒体を提供することにある。

【0009】

【課題を解決するための手段】請求項1に記載の発明に

係るデータ処理装置は、HTMLファイルを作成するための入力項目を備えた複数種類のHTMLファイル作成用テンプレートを記憶した記憶手段と、前記複数種類のHTMLファイル作成用テンプレートから1のHTMLファイル作成用テンプレートを指定する指定手段と、指定されたHTMLファイル作成用テンプレートに含まれる入力項目を入力画面として表示手段に表示させる第1表示制御手段と、表示された入力項目に対応するデータを入力するデータ入力手段と、前記入力されたデータを前記指定されたHTMLファイル作成用テンプレートの対応する場所に格納し、データが格納されたHTMLファイル作成用テンプレートに基づいてHTMLファイルを作成するHTMLファイル作成手段と、を備えた構成として上記課題を解決する。

【0010】即ち、請求項1記載の発明によれば、記憶手段には、HTMLファイルを作成するための入力項目を備えた複数種類のHTMLファイル作成用テンプレートが記憶されており、指定手段は、記複数種類のHTMLファイル作成用テンプレートから1のHTMLファイル作成用テンプレートを指定し、第1表示制御手段は指定されたHTMLファイル作成用テンプレートに含まれる入力項目を入力画面として表示手段に表示させ、データ入力手段は、表示された入力項目に対応するデータを入力し、HTMLファイル作成手段は、入力されたデータを前記指定されたHTMLファイル作成用テンプレートの対応する場所に格納し、データが格納されたHTMLファイル作成用テンプレートに基づいてHTMLファイルを作成する。

【0011】従って、指定されたHTMLファイル作成用テンプレートに含まれる入力項目を入力画面として表示手段に表示し、表示された入力項目に対応するデータが入力されると、入力されたデータを指定されたHTMLファイル作成用テンプレートの対応する場所に格納し、データが格納されたHTMLファイル作成用テンプレートに基づいてHTMLファイルを作成する構成であるので、簡単な方法で、且つ低コストの装置でHTMLファイルを作成することが可能となる。付言すると、使用者がHTMLのタグを理解できなくても容易にHTMLファイルを作成することができ、また、低データ量のソフトウェアでHTMLファイルを作成することができるのでCPUなどのハードウェアに高いパフォーマンスを必要としないという効果を奏する。

【0012】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照して本発明の一実施の形態を詳細に説明する。図1は本発明に係るデータ処理装置を適用したコンピュータシステムの要部構成を示すブロック図である。

【0013】図1に示したコンピュータシステム1は、例えば、CPU2、入力装置3、RAM4、通信ポート5、表示装置6、印刷装置7、及び記憶装置8により構

成されている。

【0014】CPU2は、記憶装置8の記憶媒体9に記憶されているシステムプログラム及び当該ウィンドウシステムに対応する各種アプリケーションプログラムの中から指定されたアプリケーションプログラム、入力装置3から入力される各種指示あるいはデータをRAM4内のワークメモリに格納し、この入力指示及び入力データに応じてRAM4内に格納したアプリケーションプログラムに従って各種処理を実行し、その処理結果をRAM4内のワークメモリに格納するとともに、表示装置6に表示する。そして、ワークメモリに格納した処理結果を入力装置3から入力指示される記憶装置8内の記憶媒体8aの保存先に保存する。

【0015】また、CPU2は、上記記憶媒体8aに格納されたプログラムに従って、後述するHTMLファイル作成処理（図6参照）を実行する機能を有する。具体的には、CPU2は、RAM4に格納された複数種類のHTMLファイル作成用テンプレートの中から1のHTMLファイル作成用テンプレートが指定されると、RAM4内の入力画面メモリ4Bから、指定されたHTMLファイル作成用テンプレートに対応する入力画面（この入力画面は、指定されたHTMLファイル作成用テンプレートの入力項目を含んでいる）を読み出して表示し、表示された入力画面の入力項目に対応するデータが入力されると、入力されたデータを前記指定されたHTMLファイル作成用テンプレートの対応する場所に格納し、次いで、データが入力された当該HTMLファイル作成用テンプレートをHTMLファイルに変換し、続いて、HTMLファイルを解析して、表示装置6の表示画面に表示させる。

【0016】入力装置3は、カーソルキー、数字入力キー及び各種機能キー等を備えたキーボードと、ポインティングデバイスであるマウスと、を備え、キーボードで押下されたキーの押下信号をCPU2に出力するとともに、マウスによる操作信号をCPU2に出力する。

【0017】RAM(Random Access Memory)4は、例えば、図2の如くメモリ構成されており、指定されたアプリケーションプログラム、入力指示、入力データ及び処理結果等を格納するワークメモリ4Aと、複数種類の入力画面のデータを格納する入力画面メモリ4Bと、複数種類のHTMLファイル作成用テンプレートを格納するHTML作成用テンプレートメモリ4Cと、HTMLファイルをジャンル別に纏めた複数種類のインデックスファイルを格納するインデックスファイルメモリ4D、HTMLテキストを格納するテキストデータメモリ4Eと、画像ファイルを格納する画像ファイルメモリ4Fとを備えている。

【0018】図3は、上記図2に示すRAM4内の入力画面メモリ4Bに格納される入力画面データの1例を示す図である。入力画面メモリ4Bには、複数種類のHT

MLファイル作成用テンプレートに各々対応した複数種類の入力画面のデータが格納されている。より具体的には、各入力画面は、対応するHTMLファイル作成用テンプレートの入力項目と、データ入力欄とから構成されている。入力画面の種類としては、例えば、ホテル、レストラン、ショップ、プレイスポット、・・・、がある。

【0019】図3に示す例は、ホテルの入力画面を示しており、“入力項目”と、入力項目に対応するデータが入力される“データ入力欄”とからなる。具体的には、“入力項目”としては、“ジャンル”、“ホテル名”、“電話番号”、“郵便番号”、“住所”、“URL”、“交通”、“画像データ”、“宿泊費”、“付帯設備”、及び“駐車場”が設定されている。これは、ホテルのHTMLファイル作成用テンプレート(図4参照)に対応している。

【0020】使用者は、上記した入力画面の入力項目内容に従い、文字、画像ファイル名、表ファイル名などを入力又は選択し、入力項目を埋めていくことにより、使用者が入力した内容がHTMLファイル作成用テンプレートの対応位置に自動的に入力されてHTMLファイルが作成される。

【0021】図4は、上記図2に示すRAM4内のHTMLテンプレートメモリ4Cに格納されるHTMLファイル作成用テンプレートの1例を示す図である。図4に示す例は、ホテルのHTMLファイル作成用テンプレートを示しており、タグと呼ばれる「<」と「>」で囲まれた書式指定とテキストによって構成されている。これは、上記したホテルの入力画面(図3参照)に対応している。この他、HTMLファイル作成用テンプレートとしては、例えば、図6(図6は、HTMLファイル作成用テンプレートを選択するための選択画面を示す)に示すような、レストラン、ショップ、プレイスポット、・・・、がある。

【0022】図5は、図4に示すホテルのHTMLファイル作成用テンプレートをテキスト形式で示したものである。図5に示すテンプレートは、“入力項目”と、入力項目に入力されるデータの“データ長(データ形式)”と、“備考欄”の各項目からなる。具体的には、“入力項目”としては、“ジャンル”、“ホテル名”、“電話番号”、“郵便番号”、“住所”、“URL”、“交通”、“画像データ”、“宿泊費”、“付帯設備”、及び“駐車場”が設定されている。①、②、③が付いた項目は、インデックスファイルの入力対象となる項目である。

【0023】図7は、上記図2に示すRAM4内のインデックスファイルメモリ4Dに格納されるインデックスデータの表示例を示す図である。インデックスファイルは、HTMLファイル(HTMLファイル用テンプレート)をジャンル別に特定入力項目のデータについて纏め

たものである。

【0024】図7に示す例は、ホテルのインデックスを示しており、このホテルのインデックスは、ホテルのHTMLファイル(HTMLファイル用テンプレート)の“ホテル名”、“電話番号”、及び“住所”のデータを纏めたものである。具体的に一例を上げると、“てすとホテル”の電話番号として“0425-79-7410”が、住所として“東京都羽村市栄町3-2-1”が設定されている。

【0025】このインデックスと対応するHTMLファイルとはリンクされていてファイル間のアクセスが簡単に行えるようになっている。また、複数のHTMLファイル作成用テンプレート(この複数のHTMLファイル作成用テンプレートにそれぞれ対応する複数の入力画面)に対応させて、それぞれインデックスが設けられている。

【0026】通信ポート5は、ネットワークに接続され、データを送受信するため、モデムを介して電話回線との接続を行う。

【0027】表示装置6は、CRT(Cathode Ray Tube)等により構成され、CPU2から入力される表示データを指定された色で表示する。印刷装置7は、CPU2から入力される印字データを指定された色で印刷出力する。

【0028】記憶装置8は、プログラムやデータ等が予め記憶されている記憶媒体9を有しており、この記憶媒体8aは磁気的、光学的記録媒体、若しくは半導体メモリで構成されている。この記憶媒体8aは記憶装置8に固定的に設けたもの、若しくは着脱自在に装着するものであり、この記憶媒体8aには上記システムプログラム及び当該システムに対応する各種アプリケーションプログラム(HTMLファイル作成プログラムやブラウザ等)、印刷処理プログラム及び各処理プログラムで処理されたデータ等を記憶する。

【0029】また、この記憶媒体8aに記憶するプログラム、データ等は、通信回線等を介して接続された他の機器から受信して記憶する構成にしてもよく、更に、通信回線等を介して接続された他の機器側に上記記憶媒体8aを備えた記憶装置を設け、この記憶媒体に記憶されているプログラム、データを通信回線を介して使用する構成にしてもよい。

【0030】次に、動作について説明する。図8はCPU2の制御により実行されるHTMLファイル作成処理を説明するためのフローチャートである。図8のフローチャートに記載した各機能を実現するプログラムはCPU2が読み取り可能なプログラムコードの形態で上記記憶媒体8aに記憶されている。

【0031】以下、図8のフローチャートに従って、図3～7及び図9を参照して、CPU2の制御により実行されるHTMLファイル作成処理を説明する。

【0032】図8に示すHTMLファイル作成処理を実行する前段で、既に電源の投入、及び初期設定が完了しているものとする。

【0033】図8において、先ず、操作者の入力装置3の入力操作に従って、CPU2は、「ハイパーメモモード」を設定し、ハイパーメモモードの初期表示画面を表示装置6に表示する。次いで、CPU2は、この初期表示画面で、操作者の入力装置3の入力操作によりファイル選択が指定されたか否かを判断する(ステップS1)。この判断の結果、ファイル選択が指定されていない場合には、ステップS25に移行して他の処理を実行する一方、ファイル選択が指定された場合には、ステップS2に移行する。

【0034】ステップS2では、CPU2は、初期表示画面で操作者による入力装置3の入力操作により、新規作成が選択されたか否かを判断する。この判断の結果、新規作成が選択されなかった場合には、ステップS15に移行して、既存のファイルを利用して処理が行われることになる(ステップS15～ステップS24)。一方、新規作成が選択された場合には、CPU2は、図6に示すような、表示装置6に、メモの一覧をメニュー表示する(ステップS3)。

【0035】この選択画面では、“ホテル”、“レストラン”、“ショップ”、・・・及び“名簿管理”が表示されている。ここで、メモの種類の選択が行われると(ステップS4)、CPU2は、選択したデータに対応するHTMLファイル作成用テンプレートを指定する(ステップS5)。そして、CPU2は、指定したHTMLファイル作成用テンプレートに対応する入力画面をRAM4内の入力画面メモリ4Bから読み出して表示装置6に表示する(ステップS6)。

【0036】具体的には、例えば、メモ一覧のメニュー表示画面で、“ホテル”が選択されると、例えば、RAM4内のHTMLテンプレートメモリ4Cに格納されている複数のHTMLファイル作成用テンプレートの中から図4に示すようなホテルのテンプレートが指定される。そして、このホテルのテンプレートに対応する図3に示すようなホテルの入力画面が、RAM4内の入力画面メモリ4Bから読み出されて表示装置6に表示される。

↓
【0037】次いで、CPU2は、操作者の入力装置3の入力操作により、入力画面の入力項目にデータが入力されると、指定されたHTMLファイル作成用テンプレートの対応する部分に入力データを書き込む(ステップS8)。次いで、CPU2は、データが入力された項目が、対応するインデックスの入力項目(インデックスに必要なデータ)か否かを判断し(ステップS9)、対応するインデックスの入力項目である場合には、入力されたデータを抽出して対応するインデックスファイルに登録する(ステップS10)。

【0038】具体的には、例えば、図3に示すホテルの入力画面の入力項目にデータが入力された場合には、図4に示すホテルのテンプレートの対応する部分にデータが書き込まれ、また、この入力されたデータが、図7に示すホテルのインデックスファイルの入力項目である

“ホテル名”、“電話番号”、“住所”である場合には、この入力されたデータが抽出されて、このホテルのインデックスに登録される。

【0039】次いで、CPU2は、操作者の入力装置3の入力操作により保存が選択されたか否かを判断し(ステップS11)、保存が選択されていない場合には、ステップS7に移行して、データ入力を行う一方、保存が選択された場合には、データが入力されたHTMLファイル作成用テンプレートに基づいて、HTMLファイルを作成して、RAM4内のHTMLテキストメモリ4Eに格納し、ステップS13に移行する。

【0040】ステップS13では、CPU2は、操作者の入力装置3の入力操作により終了が選択されたか否かを判断し、終了が選択された場合には、当該HTMLファイル作成処理を終了する一方、終了が選択されていない場合には、ステップS14に移行する。

【0041】ステップS14では、CPU2は、ブラウザを起動させるためのアイコンが操作されたか判断する。このアイコンが選択されなかった場合には、ステップS7に移行して、データ入力が行われる一方、このアイコンが選択された場合には、ステップS20に移行して、記憶媒体8aに格納されたブラウザを起動し、保存した(指定した)HTMLファイルを解析して表示/編集等の処理が行われる(ステップS20～ステップS24)。

【0042】他方、上記ステップS15では、CPU2は、操作者の入力装置3の入力操作により、ファイルを開くが選択されたか否かを判断し、ファイルを開くが選択されなかった場合には、ステップS25に移行して、他の処理を実行する。一方、ファイルを開くが選択された場合には、表示装置6に、メモの一覧をメニュー表示する(ステップS16)。CPU2は、このメモ一覧のメニュー表示画面で、操作者の入力装置3の入力操作により、メモの種類の1つが選択されると(ステップS17)、そのメモの種類のインデックスファイルの一覧を表示する(ステップS18)。

【0043】次いで、CPU2は、操作者の入力装置3の入力操作により、インデックスファイル一覧の中からインデックスが指定(HTMLファイルの指定)されると(ステップS19)、記憶媒体8aに格納されたブラウザを起動する(ステップS20)。

【0044】続いて、CPU2は、ブラウザに従って、指定されたHTMLファイルを解析して表示する(ステップS21)。具体的には、例えば、“ホテル”のインデックス表示から1つのデータを指定すると、図9に示

すような表示が行われる。即ち、ブラウザにより、HTMLファイルの内容を画像を含めて見ることができる。

【0045】そして、CPU2は、操作者の入力装置3の入力操作により、編集コマンドが選択されたか否かを判断し、編集コマンドが選択された場合には、例えば、上記図3に示すような入力画面に既に入力されているデータを付加したものを表示して（ステップS23）、ステップS7に移行してデータの編集が行われることになる。

【0046】一方、ステップS22で、編集コマンドが選択されていない場合には、ステップS24に移行して、操作者の入力装置3の入力操作により終了が選択されたか否かを判断し、終了が選択された場合には、当該HTMLファイル作成処理を終了する一方、終了が選択されていない場合には、ステップS21に移行する。

【0047】尚、上記フローチャートには示していないが、インデックスを表示中、或いはブラウザで表示中のファイルは、入力装置3の入力操作により削除することができる。

【0048】以上説明したように本実施の形態は、CPU2は、指定されたHTMLファイル作成用テンプレートに含まれる入力項目を入力画面として表示装置6に表示し、表示された入力項目に対応するデータが入力されると、入力されたデータを指定されたHTMLファイル作成用テンプレートの対応する場所に格納し、データが格納されたHTMLファイル作成用テンプレートに基づいてHTMLファイルを作成する構成である。

【0049】従って、簡単な方法で、且つ低コストの装置でHTMLファイルを作成することが可能となる。付言すると、使用者がHTMLのタグを理解できなくても容易にHTMLファイルを作成することができ、また、低データ量のソフトウェアでHTMLファイルを作成することができるのでCPUなどのハードウェアに高いパフォーマンスを必要としないという効果を奏する。

【0050】また、本実施の形態は、HTMLファイルを解析して、表示装置6に表示させる構成であるので、作成したHTMLファイルの内容を表示することが可能となる。

【0051】また、本実施の形態は、入力画面の入力項目に入力されたデータのうち、特定の入力項目のデータを抽出してインデックスを作成し、このインデックスとHTMLファイルをリンクさせた構成であるので、インデックスに基づいてHTMLファイル呼び出すことができ、データ管理が容易となる。

【0052】また、本実施の形態は、HTMLファイルを解析して表示装置6に表示されている状態から入力画面に戻して編集が可能な構成であるので、HTMLファイルの編集が容易になるという効果を奏する。

【0053】

【発明の効果】請求項1記載の発明によれば、指定され

たHTMLファイル作成用テンプレートに含まれる入力項目を入力画面として表示手段に表示し、表示された入力項目に対応するデータが入力されると、入力されたデータを指定されたHTMLファイル作成用テンプレートの対応する場所に格納し、データが格納されたHTMLファイル作成用テンプレートに基づいてHTMLファイルを作成する構成であるので、簡単な方法で、且つ低コストの装置でHTMLファイルを作成することが可能となる。付言すると、使用者がHTMLのタグを理解できなくても容易にHTMLファイルを作成することができ、また、低データ量のソフトウェアでHTMLファイルを作成することができるのでCPUなどのハードウェアに高いパフォーマンスを必要としないという効果を奏する。

【0054】請求項2の発明によれば、HTMLファイルを解析して、表示手段に表示させる構成であるので、請求項1記載の発明の効果に加えて、作成したHTMLファイルの内容を表示することが可能となる。

【0055】請求項3記載の発明によれば、入力画面の入力項目に入力されたデータのうち、特定の入力項目のデータを抽出してインデックスを作成し、このインデックスとHTMLファイルをリンクさせた構成であるので、請求項1又は2記載の発明の効果に加えて、インデックスに基づいてHTMLファイル呼び出すことができ、データ管理が容易となる。

【0056】請求項4記載の発明によれば、複数の入力画面に対応させてそれぞれインデックスを設けた構成であるので、請求項1～3記載のいずれか1つに記載の発明の効果に加えて、データ管理がより容易となる。

【0057】請求項5記載の発明によれば、HTMLファイルを解析して表示手段に表示されている状態から入力画面に戻して編集が可能な構成であるので、請求項1～4のいずれか1つに記載の発明の効果に加えて、HTMLファイルの編集が容易になるという効果を奏する。

【0058】また、請求項6記載の発明によれば、記憶媒体に格納されたプログラムをコンピュータで実行することにより、簡単な方法で、且つ低コストの装置でHTMLファイルを作成することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るデータ通信装置の一実施の形態を示すコンピュータシステムのブロック図である。

【図2】図1のRAM4のメモリ構成例を示す図である。

【図3】図2に示すRAM4内の入力画面メモリ4Bに格納される入力画面データの一例を示す図である。

【図4】図2に示すRAM4内のHTMLファイル作成用テンプレートメモリ4Bに格納されるHTMLファイル作成用テンプレートの一例を示す図である。

【図5】図4に示すHTMLファイル作成用テンプレートのテキスト形式の例を示す図である。

【図6】HTMLファイル作成処理(図8)で表示されるテンプレート選択画面の表示例を示す図である。

【図7】図2に示すRAM 4内のインデックスメモリに格納されるインデックスデータの表示例を示す図である。

【図8】CPU 2の制御により実行されるHTMLファイル作成処理を説明するためのフローチャートである。

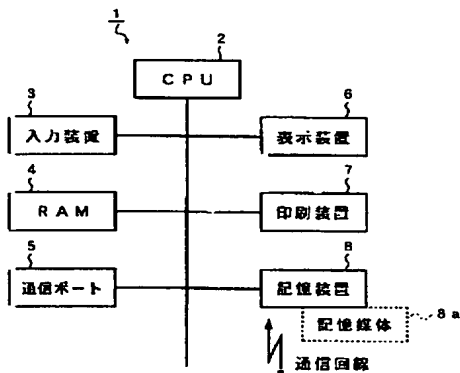
【図9】上記HTMLファイル作成処理でHTMLファイルが解析して表示された表示例を示す図である。

【符号の説明】

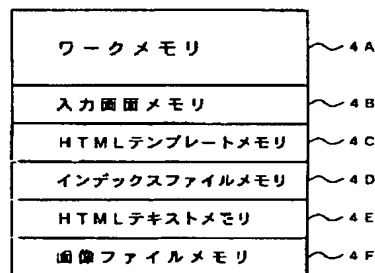
- 1 コンピュータシステム
2 CPU

- 3 入力装置
4 RAM
4A ワークメモリ
4B HTML作成用テンプレートメモリ
4C インデックスメモリ
4D テキストデータメモリ
4E HTMLファイルメモリ
5 通信ポート
6 表示装置
7 印刷装置
8 記憶装置
8a 記憶媒体

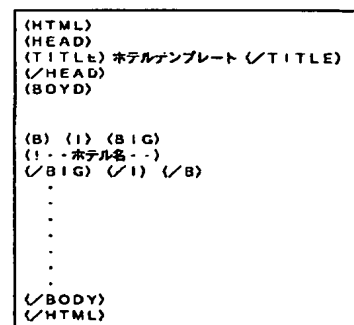
【図1】



【図2】



【図4】

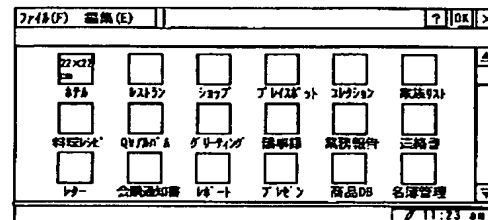


【図5】

入力項目	データ長	備考
ジャンル	20	
① ホテル名	30	
② 電話番号	60	
郵便番号	7	
③ 住所	200	
URL	150	"http://" が付外で入力済
交通	100	
画像データ	GIF/JPEG	160×120dot (QV) 160×72dot (手書き)
宿泊費	100	
付帯設備	100	
駐車場	50	

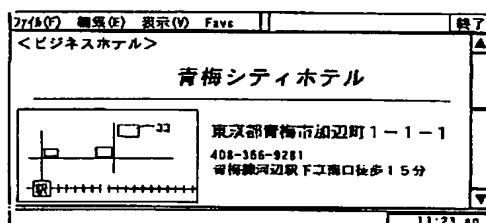
【図6】

テンプレート選択



【図3】

【図9】



【図7】

インデックス表示

Location: [file:///0:/yamapen/HTML_editor/47A/47A目次.htm] [↓]		
ホテル リスト		
名前	電話番号	住所
てすとホテル	0425-79-7410	東京都羽村市栄町3-2-1
てすとホテル	0120-444-555	東京都千代田区千代田一丁目一番地
てすと旅館	1234567890	北海道札幌市川崎町田んぼ2-3-4
ああああああああああ	00011122233665	

【図8】

